

「どだなだ」… お互いの仕事の様子や子どもたちの状況を気軽に聞き合い
業務の分担や平準化、支え合える職場環境にしましょう。

働き方改革につながる次年度の計画を！

1 次年度の計画作成と保護者等への周知について

年度の後半が始まり、遠足や秋の運動会、修学旅行等、また中学校・高校の生徒会や部活動での代替わりや年末・年度末に向けた業務も少しずつ増えてきていることと思います。一方、職員室では、年度末に向けた業務とともに、新年度の年間行事予定等の検討が始まっている頃と思います。

2月には多くの学校で PTA 代表者会議（評議員会）が行われるものと思いますが、次年度の「学校における働き方改革」を円滑に進めていくためにも、会議の場で次年度の活動や方針の変更をお伝えし、保護者の方からの意見を伺っておきたいものです。

参考として、「学校における働き方改革の取組み手引【改訂版】」から、“年度末にやっていてよかった”という事例を紹介します。

	手引事例 2 - 7 0 2	学校名	東根市立中学校
意図・目的・願い	長時間勤務を解消し、退勤時間を少しでも早めたい。 教材研究、教師同士の普段の学び合いの時間を確保したい。		
具体的な取組み			
before			
月曜日「定時退勤日＝ノー部活デー」とし、職員会議や校内研修を実施してきた。火～金曜日は部活動を行ってきたが、その分生徒会・学年・学級等の自治活動時間の確保が課題であった。			
after（出来上がった姿）			
授業日数の確保と学校行事準備時間の削減により、5校時授業を基本実施し、部活動終了時刻が1時間早まる日を増やした。			
原則、月曜日「定時退勤日＝ノー部活デー」、木曜日「生徒活動優先日＝ノー部活デー」とし、自治活動時間を確保した。			
取組みまでのプロセスや留意したこと ※下線部はプロセスの要となる点	① <u>昨年度の早い時期より、教務主任が年間計画案を提案し協議を重ねた。</u> ② 職員会議で提案。 ③ P T A 理事会で説明し、P T A 総会で保護者に説明。 ④ 「ノー部活デー」に部活動を実施する場合（地区中総体、県中総体等の部活動強化期間等）については、月歴等で事前に周知。		

～ 『手引き（p66～p77）』で取り上げられている次年度に係るその他の事例～

- ◆ プール管理業務の縮減
- ◆ 学校閉庁日の拡充
- ◆ 校内会議の削減
- ◆ 地域伝統行事への参加方法等の見直し
- ◆ PTA 活動の廃止、削減（併せて、PTA 活動の充実・強化…詳細は p72・75 参照） ほか

（裏面：山形県公立学校における働き方改革に関する検討委員会についての報告）

2 山形県公立学校における働き方改革に関する検討委員会開催

10月4日（金）、山形県公立学校における働き方改革に関する方針やプランを話し合う検討委員会を実施しました。会議には、市町村教育委員会や教育事務所、各校長会、各PTA連合会の代表の方々にご参加いただき、それぞれの立場からのご意見をいただきました。

～ 会議でいただいたご意見等 ～

勤務時間の上限を示していくことは必要だが、大切なのはその達成に向けて、どんな取組みやアクションをしていくかである。

給食費の公会計化をやっている自治体があるが、教員の業務負担がとて減ったとの報告がある。波及させていきたい。

何といても、人を増やしてほしいというのが学校現場の切実な声。

勤務時間外の留守番電話対応は、先生方の負担軽減や保護者に対する啓発も深まってよい。今後も、進めていってほしい。
一般企業が提供している学校に特化した連絡網もたくさんあるので、活用していくべきとよいだろう。

中学校・高校では、部活動の負担が大きい。大会前の練習に加え、大規模な大会の運営業務が入ってくることもあり、競技団体や地域も含めて、部活動の在り方を抜本的に見直すべき。

「あった方がよい」を削減していくばかりでは、豊かな学校文化が失われていくのではないか。

部活動は、強豪校ほど、活動時間が長くなる。教員の負担を減らしていくことには賛成だが、部活動指導員については、事故や引率などに対して、子どもたちをどこまで守ってもらえるのかという不安もある。

学校現場では、TTによる授業の打合せ、専門性の維持向上のための校内外における研修会への参加なども増加している。教員自身が時間を有意義に活用できるよう、「NO会議デー」を設けたが、職員間の打合せで終わってしまうことがあった。「個人仕事デー」として、個人の時間を大切にすることを設けたところ、同じ日に家族が早めに帰宅し、一緒に食事を摂るなどの波及効果があった。
このような取組みを継続していくことが大切だと思う。

台風19号は、県内にも多数の浸水被害や暴風被害をもたらしてしまいました。ご家族やご親族の方々も含め、被害にあわれた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、秋になると、晴れ渡った空と清々しい空気の中、職員の有志が職員室や事務室から参加者を募って、ソフトボールやバドミントン等のレクリエーションを行ったり、直会を兼ねた懇親会では互いの教育論を語り合ったりしたことを思い出します*。

姿は様々かと思いますが、皆さまのワークライフバランスのためにも、そして、豊かな学校文化のもとで子どもたちにとって真に必要な教育実践が行われるためにも、同僚性に満ちた環境が持続されるよう、お互いに「どだなだっす」、「何たっす」の心を大切にしていきたいものです。

* 校種による文化の差があるかもしれません（通信担当者は高校籍です）。